



WILL ちいき通信 Vol. 8

地域連携委員会 2022年3月発行

札幌保健医療大学から、地元の皆様に地域連携活動をお知らせする広報誌です。

■『WILL ちいき通信』第8号 発行にあたって

地域連携委員長 齋藤 早香枝

新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされる生活も3年目となりました。

地域での行事が数多く中止される中、保健医療分野における「知」の拠点として地域の皆様に何ができるか、地域貢献活動の在り方を模索する年でした。今年度は、大学拠点接種（職域接種）の実施拠点となり、約1,000名の方々が本学でワクチンを接種されました。微力ながら地域の健康保持・増進にお役に立てたのではないかと考えております。また、コロナによる生活の変化から様々な健康課題も生じてきています。それらと向き合いながら、これからも地域の皆様からのご指導、ご助言をいただき、看護・栄養両学科の連携強化による地域に根差した活動を推進していきたいと思っております。

2021年度 地域連携活動報告

◆ モエレ町内会「中沼西夏祭り」開催中止

例年参加していたモエレ町内会主催の「中沼西夏祭り」は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今年度は開催が見送られました。次年度は、感染拡大が終息し、再開が決まれば是非参加したいと思います。

◆ 「ひがしく健康・スポーツまつり2021」開催中止

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、開催が中止となりました。主催者である東区連合町内会連絡協議会と東区役所では、区民の健康づくりを支援できるように「生活に密着したウォーキング普及事業」に共催として参画する冊子「東区ウォーキングノート2022（ゆったり編、おしごと編）」の学内配布に協力する形での参加に留まりました。

◆ 「第12回公開講座」を開催しました

10月30日（土）に、本年度第1回目となる第12回公開講座を「札幌紀伊國屋書店インナーガーデン」において開催しました。今回は、「光と食とサーカディアンリズム～良質な睡眠のための生活のヒント～」をテーマにコーディネーターは本学看護学科の齋藤早香枝教授が務め、46名の皆様に参加いただきました。初めに小林清一学長から挨拶があり、その後、本学看護学科萩野悦子教授から「サーカディアンリズムと睡眠～光を上手に使いましょう～」、栄養学科千葉昌樹教授から「時間栄養学とタイミングの栄養学～本当に朝食って必要なの？～」と

して講演が行われました。これを受けて、参加者の方から多くの質問がだされ、あっという間に終了の時刻がきました。参加者からは「とても生活に役立つ内容でした。」「朝ごはんはきちんと食べるようにしようと思いました。」などの感想が寄せられました。



◆ 「令和3年度ひがしく健康づくりフェスティバル」開催中止 代替企画「健康づくりパネル展」に参加



例年2月に開催していた「ひがしく健康づくりフェスティバル」も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて開催中止となり、その代替イベントとして「健康づくりパネル展」が2022年1月17日から1月21日の日程で、開催されました。「健康寿命延伸」をテーマとして「歩行時間増加」、「減塩」、「健診」を題材にしたポスターを5者連携で参加している各校が制作・展示するという企画です。本学からは、「減塩しよう!」というタイトルで、調味料の塩分や減塩メニューを載せたポスターを栄養学科の学生が制作し出展しました。展示期間が短かったこともあり、期間中の訪問者は多くはありませんでしたが、発表作品の中ではなかなかの出来栄であったと思います。

2022年度 地域連携活動予定

- ◆ 6月 公開講座 於：紀伊國屋書店本店 1F インナーガーデン
- ◆ 10月 公開講座 於：紀伊國屋書店本店 1F インナーガーデン
- ◆ 7月 モエレ町内会中沼西夏祭り 健康相談・学生催事 於：中沼西会館
- ◆ 10月 ひがしく健康・スポーツまつり2022
- ◆ 2月 ひがしく健康づくりフェスティバル 於：東区民センター

編集後記 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のために東区5者地域連携事業のほとんどが中止となり、継続した活動をとおして、地域の方々とより深くふれあうことの難しさを感じた一年でした。2022年度はこの新型コロナウイルス感染症拡大の終息を願って、引き続き保健医療分野の知の拠点として地域の方々へ情報発信をしていきますので、よろしくお願いいたします。(編集担当委員：小笠原)

発行所  札幌保健医療大学
Sapporo University of Health Sciences

〒007-0894 札幌市東区中沼西4条2丁目1番15号
Tel. (011) 792-3350 (代) Fax. (011) 792-3358